

大震災への思い語る

信大留学生 松本秀峰中生と交流



留学生たちと交流する生徒たち=松本市の松本秀峰中等教育学校で

信州大（松本市）で学ぶ外国人留学生二人が四日、同市の中高一貫校・松本秀峰中等教育学校を訪れ、外国人の立場から、東日本大震災で考えさせられたことなどを生徒たちに語った。

（信州大松本市）で学ぶ外国人留学生二人が四日、同市の中高一貫校・松本秀峰中等教育学校を訪れ、外国人の立場から、東日本大震災で考えさせられたことなどを生徒たちに語った。

（三四）が、信州大と松本秀峰中等教育学校との連携協定に基づく交流事業の一環で招かれた。震災発生時に東京にいたという劉さんは「電車や公衆電話の順番を待つ日本人の秩序と冷静さに驚いた」と語った。

中国出身の劉一凡さんは「（三）とスリランカ出身のランブクピティア・ディヌーシャさん

（三）が、信州大と松本秀峰中等教育学校との連携協定に基づく交流事業の一環で招かれた。震災発生時に東京にいたという劉さんは「電車や公衆電話の順番を待つ日本人の秩序と冷静さに驚いた」と語った。

藤森洸君（二）は「震災に対する海外の受け止めがよく分かった。救援は心強く感じた」と感想を話した。

（安藤孝憲）

る。できることと一緒に頑張ろう」とエールを送った。

ランブクピティアさん

は母国の新聞報道を紹介し、津波や原発事

故への関心の高さを示した。地震がないスリランカでは、災害時の

対策や避難体制の整備が不十分といい「日本

の経験から学び、自然と一緒に暮らす方法を

考えないといけない」と話した。

中学一年にあたる一年生八十四人が聴講。

講演後は自由に意見交換し、日本の復興を願う二人の思いに触れた。

藤森洸君（二）は「震災に対する海外の受け止めがよく分かった。救援は心強く感じた」と感想を話した。

（安藤孝憲）